

## 事例 43 単元「ビジネスと情報活用能力」

### プレゼンテーション能力を高めよう

商業 課題研究 情報流通科 第3学年  
石川県立珠洲実業高等学校・教諭

#### 1 事例の概要

本校情報流通科は、これまで地域の情報処理教育の中心的役割を担ってきた。しかし、近年、中学校や高等学校においても情報教育が行なわれるようになり、情報流通科卒業生には、これまで以上に高い情報処理能力の習得が求められようになっている。また、本校の生徒には、卒業後の就職を希望して本校を選択したものが多い。このような現状をもとに本校情報流通科における情報処理関連科目の共通の目標として「ビジネス分野における情報活用能力の育成」を掲げ、指導の柱に据え実践しており、本事例は、その取組の1つである。

また、本校生徒は控えめで恥ずかしがり屋の生徒が多く、情報や自分の思いを上手に発信できない生徒が多い。卒業生から就職後もその点で苦労していると相談されることがある。このような課題の対応として、ビジネスに欠かせない資質の一つ「プレゼンテーション能力の育成」を1年次から各科目共通の取組として実践している。併せてその中の有効な情報処理機器の活用を工夫している。

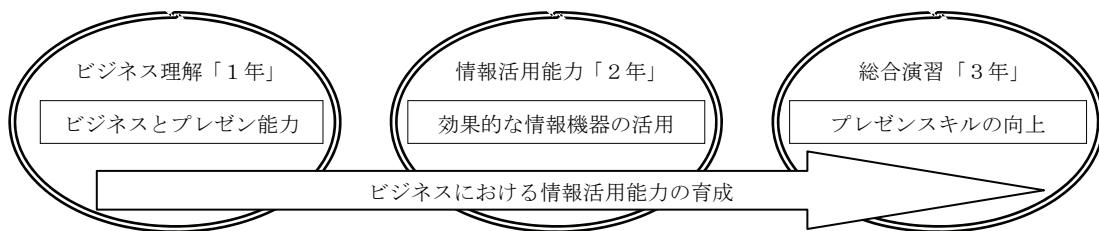
#### 2 実践内容

##### (1) 題材の目標

- ① ビジネス社会の諸課題の分析を通して、ビジネス社会に必要な諸能力を理解させ、その1つとしてプレゼンテーション能力があることに気付かせる。
- ② 情報発信能力の向上には、情報処理関連機器の活用が有効であることを理解させる。
- ③ 社会の情報化、特にネットワークの普及がビジネスをどう変化させたか、また今後どのように変化するかを考え、変化に対応できる能力を育成する。

##### (2) 指導上の工夫点(視点)

- ① 学年進行による指導の連携



「ビジネス分野における情報活用能力の習得」のために上記の科目を連携し、科目ごとに発達段階に応じた指導内容の工夫を行うことにより理解・能力を系統的に向上させる。

- ② 起業家精神の育成

ビジネスの諸活動を担う発想力や企画力を育成するため、地域連携型オリジナル商品の開発や販売促進の研究、市場調査の実施により起業家精神を養い、地社会の発展に貢献できる人材を育成する。

- ③ 思いを上手く伝える

現在のビジネス社会においてプレゼンテーション能力は不可欠な能力である。各科目の授業を通して積極的に発表する機会を設定し、さらには発表会形式の実習の場を設け、自己評価や相対評価を通じてより適切に情報を発信する能力を育成する。

### 3 指導の実際

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
展開 35	展開Ⅰ (発表準備)  展開Ⅱ (実習)	自己評価票・相互評価票の項目を確認し、発表の注意点を学習する。  プレゼンテーション実習 各班8分 ・オリジナル商品開発における企画 ・販売促進方法に関する企画 ・市場調査に関する企画 (各評価票の記入)  ※企画に対しての評価や意見を記入するアンケートも行う。	・各評価票を配布し、プレゼン形式で評価項目を説明する。  ・評価票の記入について助言を行うとともに、担当教師も相互評価票を記入する。	発表技術 ・話し方 ・発表する態度 ・発表資料の分かりやすさ 【技能・表現】 参加する態度 ・聞く態度 【関心・意欲・態度】 企画力 ・ニーズをどのように把握しているか ・イメージがわかりやすいか 【技能・表現】

C-1 指導案

C-2 ワークシート

C-3 自己評価票

C-4 相互評価票

### 4 成果と課題

#### (1) 実践的なプレゼンテーション能力の向上

年度当初、オリジナル商品や販売促進方法の企画段階でプレゼンテーションを行ったことが絶好の実践の場となった。自分の班の企画をクラス全員に理解してもらい、認めてもらおうとする活動を通して、真剣な取り組みが見られ、非常に効果的であった。聞き手も真剣となり、意思決定における聞き手側の責任も体験することが出来た。授業展開の関係で実施後に検証の時間を十分に取れなかつたが、十分な検証が次回への自信につながるので、今後、発展学習として、ビデオでの発表者自身の振り返り学習も取り入れて行きたい。また、企業関係者に参加してもらい、評価や講評を受ける実習も企画したい。

#### (2) ビジネスへの関心の高まり

自分の進路の選択を通してビジネスを考えることが、生徒の学習への関心の向上に効果的である。具体的に情報機器がビジネスにどのように関与し、どのような役割を果たしているのかを理解させることが、本取組の主な目標であり、1年次の「ビジネス基礎」を基礎として、「情報処理」等の科目との連携が重要である。ビジネスにおける情報の役割や必要性を理解することで、実習に取り組む姿勢も意欲的になっている。また、企業体験を通して、さらに効果的にビジネスの理解を促進することができる。本校では企業現場見学会やインターンシップを実施し、ビジネスを理解する機会としている。デュアルシステムのような長期的な研修が効果的であるのは明らかであるが、カリキュラム上の問題点が大きく、導入が困難な状況である。より効果的な企業体験を通した、実践的なビジネスの理解が今後の課題である。

#### (3) 起業への関心

オリジナル商品の開発や企画、販売促進の研究や市場調査の実施により「ブランド」を意識するようになり、起業への関心が高まった。実際に自分達の企画が商品となり、知らない人がそれに対価としてお金を払うという行為は、生徒の中では衝撃的なことである。さらに地域ブランドを意識した学習を通して、地域活性化を身近に考えるようになり、当初の予想を超えた成果となっている。